

ひ



え



た



# KOREMITE

— 東北学院大学博物館 収蔵資料図録 —



あ



## 第六卷

い



せ





# ようこそKOREMITEへ

## ●『KOREMITE』=コレミテとは？

『KOREMITE』=コレミテは、東北学院大学博物館が皆さんにお贈りする、当館が所蔵するコレクションの図録であり、またこの冊子に合わせて開催する企画展の展示図録ともなっています。まあ、年1回発行する、学院大博物館コレクションの情報誌とも言うておきましょうか！

目指してきたのは、学生たちのアイデアをもとにした「読んで楽しい図録」！当館で「学芸研究員」として働く大学院生、あるいは学芸員課程を学ぶ学生たちと、博物館の学芸員（教職員）とがアイデアを出し合いながら刊行を重ねてきました。この冊子自体が、学芸員を目指す学生の学びの成果です。

## ●東北学院大学博物館のコレクション

当館で扱う資料は大きく二つのタイプにわかれます。それは、当館が持つ二つの役割に対応しています。

一つは、学芸員課程の実習教育用資料として博物館が独自に収集・蓄積してきた、いわば学芸員教育のための収集資料。当館では特に仙台の歴史や東北・北海道地方の民俗に関わる資料を毎年少しずつ収集しながらこのコレクションを育てています。

そしてもう一つが、東北学院大学の教員・学生たちが、ゼミナールなどの研究・教育活動の一環として収集してきた様々な分野のコレクション。当館では特に文学部歴史学科の活動で収集・調査した資料を活用してきました。

今回はvol.6じゃ！  
これまで刊行した5冊も要チェックじゃぞ！



わしのことを知りたければ、  
29ページを見るがよい

## ●『KOREMITE』vol.6のテーマは、 資料の「レスキュー」と「再発見」

今回の『KOREMITE』のテーマは、シンプルですが、収蔵庫に眠る館蔵コレクションの再発見！



『KOREMITE』vol.3～5では、特定の資料（コレクション）を特集的にとりあげてきましたが、今回は『KOREMITE』の原点にたち帰って、これまであまり展示などに使われず、収蔵庫内で人知れず眠っていた資料を、学芸研究員各自の視点であらためて掘り起こし紹介することを、コンセプトにしました。

ただしもう一つの“隠れテーマ”が、博物館資料のレスキュー。今回の『KOREMITE』には、当館開館時にあわせ移管された、歴史学科民俗ゼミナールで収集・保管してきた500点以上もの民俗資料の一部を掲載しました。これらは実は2019年10月に関東・東北地方を襲った豪雨によって水損してしまった資料です。被害の程度は幸い比較的軽度で済みましたが、館ではこれを機会に、被災資料のケアにあわせて、館蔵資料のよりよい管理と情報公開のあり方を考え直しながら、活動を進めています。

## ◆◆◆ も く じ ◆◆◆

タナバタウマ	2	『佐藤素拙傳』と大槻文彦	20
蘇民人形	4	青い目の人形	22
東北の絵馬	6	レスキューから蔵出し！	
子育て木馬	8	—『KOREMITE』6の舞台裏—	24
肥後独楽	10	どんな時にも学びを	
うずら車	12	楽しめる博物館って？	26
杓子	14	東北学院大学博物館 特別企画	
漆塗り道具	16	第1回 キャラクター総選挙	28
仙臺古名家真蹟書画	18		

※本書は、永田英明(当館館長)・七海雅人・佐藤敏幸(当館学芸員)の監修のもと、真柄侑・横山舞(いずれも大学院博士後期課程/当館学芸研究員)が編集を担当した。また執筆は、この兩名を含む学芸研究員(大学院生)による分担で行った(担当者名は各項目に明記)。





# タナバタウマ

TANABATAUMA

担当 横山舞



- 寸法: 幅42.0cm × 高さ28.5cm
- 材質: ワラ
- 使用地: 宮城県加美郡加美町 (旧宮崎町)

カミケマを乗せるんだ!



- 寸法: (左) 幅49.0cm × 高さ35.2cm (右) 幅56.4cm × 高さ34.5cm
- 材質: ワラ
- 使用地: 宮城県亶理郡

- 寸法: 幅54.6cm × 高さ40.4cm
- 材質: ワラ、糸
- 使用地: 宮城県仙台市若林区三本塚

## 仙台的七夕行事

全国的にも有名な仙台七夕祭りは、毎年8月6日から8月8日にかけて、仙台市内のいくつかの商店街を中心に開催されます。七夕行事自体は、彦星と織姫星が天の川を渡って会うという「七夕伝説」や、技芸上達を願うという、奈良時代頃に中国から伝えられた「乞巧奠」と呼ばれる祭りがもとになっていると言われています。

七夕の時期には、商家に限らず民家も含めて七夕飾りを立てます。手製の飾り物を竹に吊るして軒先などへ飾りますが、この飾り物に「七夕飾り」と呼ばれる7種の型が定められている点が特徴です。

## 盆行事とタナバタウマ

七夕飾りのほかにも、農家などでは「タナバタウマ」と呼ばれるワラやコモクサなどで作った馬を、家屋や馬小屋の屋根上、玄関先といった場所に供えることも行われます。この馬には、七夕さま・田の神さま・精霊さま・お盆さまなどと呼ばれる先祖の霊や農神が乗り、家にやって来ると言われています。作る馬の数は、地域によって様々です。

なお、タナバタウマの風習は東日本に広く見られます。地域によっては、この馬を田畑や野に曳いて行き、戻ってくると屋根の上に投げたり、川へ流したりしていたようです。

引用・参考

- ・伊藤優 1998 「七夕と盆」『仙台市史 特別編6民俗』 仙台市
- ・岩井宏實 2017 「たなばたうま【七夕馬】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・喜多村理子 1999 「しよりのよう 精霊」『日本民俗大辞典 上』 吉川弘文館
- ・仙台市教育委員会編 2010 「仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書の 仙台の七夕飾り・仙台の竹細工」(仙台市文化財調査報告書第375集) 仙台市教育委員会
- ・吉成直樹 2000 「たなばた 七夕」『日本民俗大辞典 下』 吉川弘文館

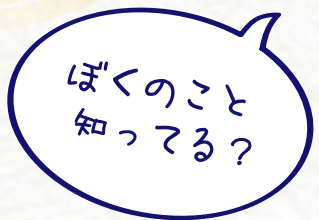




# 蘇民人形

SOMINNINGYO

担当 横山舞



蘇民将来子孫

- 寸法: 幅4.0cm × 高さ10.6cm
- 材質: 木
- 奉納地: 和歌山県 熊野本宮大社

## ある男性のものがたり

六角の柱塔状の独特な形状が目を引くこの資料は、「蘇民人形」あるいは「蘇民将来」と呼ばれる、疫病除けの護符です。

蘇民将来とは、『備後国風土記』内の説話に登場する人物名です。あるとき、北に住む疫神である武塔神が、南に住む神の娘のもとへ求婚に向かう道中に立ち寄った土地で宿を求めます。当地の裕福な巨旦将来は断り、その兄の蘇民将来は、生活は貧しかったものの、神を歓迎しました。これに喜んだ神は、蘇民将来とその子孫は、茅の輪を腰の上につけるように指示します。やがてその土地では、蘇民将来一家を残して、みな災害や疫病で死んでしまったそうです。この説話から、蘇民将来は疫病除けの神とされるようになりました。



天下泰平

延命

富貴

四海静謐

## 日本各地に見られる蘇民将来

この資料には、各面に「蘇民将来子孫」、「天下泰平」、「富貴」、「延命」、「四海静謐」と記されており、疫病除けとともに世の安寧などを祈念したことが分かります。本資料は熊野本宮大社（和歌山県田辺市）から授与されたものです。このほか、各地の社寺で蘇民将来の信仰があります。信濃国分寺八日堂（長野県上田市）や八坂神社摂社の疫病社（京都府京都市）などでは、柳の木を短い六角形の塔状に削り、蘇民将来の子孫であることが記された護符を授与しています。黒石寺（岩手県奥州市）では、旧正月7日から8日にかけて、護符の入った蘇民袋を裸の男たちが奪い合う蘇民祭が行われます。

引用・参考

- ・岩井宏實 2017 「そみんしょうらい【蘇民将来】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・熊野本宮大社HP (<http://www.hongutaisha.jp/>) 2020年3月30日閲覧
- ・黒田一充 1999 「そみんしょうらい 蘇民将来」『日本民俗大辞典 上』 吉川弘文館





# 東北の絵馬

TOHOKU NO EMA

担当 榎田公平



蹄の音が  
聞こえてきそう!

- 寸法: 幅13.5cm × 高さ10.2cm × 厚さ0.7cm
- 材質: 木

## 絵馬とは?

絵馬は一説によると、神社に神馬として生きた馬を捧げる古代の風習にあったとされており、やがて、その代用として絵馬を奉納するようになったといわれています。絵馬に描かれる馬は神の乗り物としての神馬だけでなく、農民にとっては耕作に使う馬に対する安全・守護を祈る目的として奉納されました。

## 小高神社の絵馬

本資料は、福島県南相馬市小高区おだかじんじやの小高神社から授与された絵馬です。この絵馬には、衣装・馬具に身を包んでおらず、色はぬられていない2頭の馬の走る様子が絵馬の右部から中央部にかけて墨で描かれているのが特徴です。上部中央には「相馬妙見本宮小高神社」と神社名が書かれており、その左側には御朱印が押されています。絵馬の左部には「福島縣相馬郡小高町鎮座」とこの神社が鎮座された地名が墨で書かれています。

この雄姿、  
ご覧あれ!



- 寸法: 幅26.2cm × 高さ12.7cm × 厚さ0.7cm
- 材質: 木

## 駒形神社の絵馬

本資料は、現在の岩手県奥州市(旧水沢市)の駒形こまがた神社から授与された絵馬です。この絵馬には、黒の身体に白いたてがみの1頭の馬が、赤を基調としたとてもきらびやかな衣装・馬具に身を包んだ姿で、絵馬の中央部分に大きく堂々と描かれているのが特徴です。絵馬の左部中央には地名を指す「水沢」の文字が書かれており、その上に印が押されています。右部中央には、神社名を示す「駒形神社」と書かれた紙が貼られています。上部には「南部駒」と書かれた紙が貼られています。

引用・参考  
・岩井宏實 1974 「絵馬」『ものと人間の文化史12』 法政大学出版局





# 子育て木馬

KOSODATEKINMA

担当 小林美夏



手のひらサイズの  
縁起もの!

- 寸法: 幅1.0cm × 奥行2.5cm × 高さ3.3cm
- 材質: 木
- 製作地: 福島県



外箱や由来書も  
残っています!

## 「子育て木馬」とは?

この子育て木馬<sup>きんま</sup>は、福島県三春町の郷土玩具である「三春駒<sup>みはるこま</sup>」のひとつと考えられます。「三春駒」という名称で売り出されるのは、大正時代からになります。東北学院大学博物館に所蔵されているものは、1840(天保11)年にまで遡るとも古い型になります。

## 三春駒のルーツ

795(延暦14)年に、坂上田村麻呂が蝦夷を征討する際に大滝山の石窟に住む大多鬼丸<sup>おおたきまる</sup>という夷賊を相手に苦戦していました。すると、百頭の馬が駆け込んで来たらしく、それらの鞍馬に助けられて大多鬼丸に勝利することができたのです。この勝利に関わった馬たちというのが、京都清水寺の戦勝祈願で彫った仏像の余った木で彫った木馬の化身でした。この木馬の内一体が福島県福島市(旧高梨村)に残され、それを模倣して木馬を作り、その木馬を子どもに与えると子どもは健やかに育ち、子どものいない家では子宝を授かるようになった、といわれています。

## 安産祈願と倍返し!

三春駒(子育て木馬)は、以前は寺社に奉納したり、神棚に飾ったり、小さなものを袋に入れて身につけるといっていたようです。また、馬の出産に関しては馬が出産する直前に馬頭観音などに供えてある木馬を借りてきて厩に飾り、出産後に二つにしてその木馬を返すという習俗もありました。これに似た願掛けの方法として岩手県花巻市の藁馬細工である忍駒<sup>しのびこま</sup>があります。これもまた、神社や寺院に奉納されている木馬などを借りてきて、成就した際には二つにして返すというものです。

引用・参考

・外山徹 1999 「福島県東部地方・岐阜県高山市の伝統工芸品に関する実態調査報告-大堀相馬焼・三春駒・三春張子/飛騨春慶・波草焼-」『明治大学博物館研究報告』(4) 明治大学博物館事務室





# 肥後独楽

HIGOKOMA

担当 横山舞

- 寸法:(台座)  
幅7.2cm×  
奥行29.2cm×  
高さ2.5cm
- 材質:木、鉄(芯)
- 製作地:熊本県



さあ、どれで遊ぼうか。

## 熊本独自の伝統独楽

“お正月には凧あげて こまをまわして遊びましょう”と歌われるほど、日本の正月風景には欠かせないコマ。その歴史は古く奈良時代にまで遡り、中国から伝来したものとされています。<sup>しんぶつえ</sup>神仏会の余興や貴族の遊戯ともなり、平安時代からは民間の子どもの間でも遊ばれるようになりました。

コマは、地域によって遊び方やその形態に違いがあります。本資料は、熊本に伝わる郷土玩具で、「肥後独楽」あるいは「変り独楽」とも呼ばれます。熊本のコマの特徴は、種類が多く、色彩が豊かなこと。本資料も例にもれず、12点のコマそれぞれの名前と形状が異なります。いずれも赤、黄、緑、青などの色を幅を変えながら配色していますが、胴体の外側は木地のままです。また、木地の下から鉄製の芯を打ち込んでいるものもあります。こうした鉄芯をもつものは、太い紐を5、6回巻いて、これを逆手に持ち、地面にぶつけて回します。



- 寸法:(チョンカケ)  
直径5.9cm×高さ2.6cm

## 一風変わった遊び方 ~チョンカケ~

多種多様な肥後独楽のなかでも代表格とも言えるのが、「チョンカケ」です。大きいもので直径15cmに及ぶものもあります。こうした大きな「チョンカケ」を回す場合には、1~1.5mの紐を両手に持ち、コマの芯の根元に紐をかけ、空中で紐を引くことで、紐に乗せたまま回転させます。古くは武士の間の遊びでしたが、江戸末期には大道芸人も現れ、明治以降は民間でも流行するようになりました。この技は第二次世界大戦後に廃れたものの、1968(昭和43)年に保存会が設立して復興し、1975(昭和50)年2月26日には熊本市無形文化財に指定されました。

引用・参考

- ・岩井宏實 2017 「こま【独楽】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・梅原与惣次 1936 「熊本独楽」『肥後郷土玩具随想』
- ・川越仁恵 1999 「こま 独楽」『日本民俗大辞典 上』 吉川弘文館
- ・熊本市HP ([https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c\\_id=5&id=5889](https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=5889)) 2020年4月1日閲覧
- ・肥後ちょんかけこま保存会HP (<https://higochonkakegoma.jimdofree.com/>) 2020年4月1日閲覧

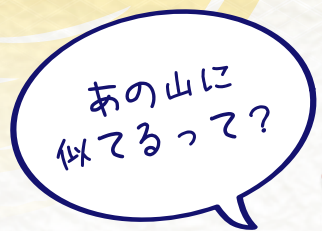




# うずら車

UZURAGURUMA

担当 横山舞



- 寸法: (左) 幅5.5cm × 高さ3.8cm  
(右) 幅12.6cm × 高さ7.0cm
- 材質: 木
- 使用地: 福島県二本松市

## その名は「うずら車」

本資料は、福島県二本松市に伝わる郷土玩具「うずら車」です。その名の通り、うずらを模して作った木片に車輪がつき、背には白地に赤い点の羽模様の彩色がなされています。角材を切って作られていますが、その形は安達太良山の姿にも似せているといわれています。江戸時代末期までは盛んに作られ、子どもの健やかな成長を願って、武家や農家などの神棚に供えられていたようです。

## 九州にいるお友達

こうした鳥のモチーフに車輪をつけた玩具として有名なものでは、九州の雉子車きじぐるまがあります。土地によって雉子馬と呼ばれることもあります。形状は九州各地で様々ですが、大きく「清水系」、「人吉系」、「北山田系」の3系統に分類されます。このうち「人吉系」と「北山田系」は頑丈な作りで大型のものが多く、子どもがまたがるのに適しているのに対し、「清水系」は比較的小型で華奢なものも多く、曳き回して遊ぶのに適した作りとなっています。いずれも戸外での遊びに適した行動的な玩具であることから、しばしば、人の形で静的な東北地方の「こけし」と対比されることがあります。

引用・参考

- ・岩井宏寛 2017 「きじぐるま【雉子車】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・相馬胤道 1986 「玩具」『二本松市史 第8巻 民俗 各論編1』、二本松市
- ・福岡市博物館アーカイブ「きじ馬と木うそー九州・木の郷土玩具ー」  
(<http://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/316/index.html>) 2020年4月1日閲覧



安達太良山遠景(石澤夏巳撮影)





# 杓子

SYAKUSHI

担当 横山舞



あなたの家では  
何と呼ぶ？

- 寸法: (左上) 高さ34.0cm × 頭部幅最大12.2cm
- 材質: 木

## 料理には欠かせない!

食べ物を分配する道具を総称して「杓子」といい、これには飯杓子と汁杓子があります。

飯杓子は、主に飯を混ぜたり、椀(碗)・皿に盛ったりする時に使われます。もともとはヒノキやスギなどの木や竹を用いて、細長い楕円形の頭部と細い柄を一枚板から削り出したものでしたが、現在ではプラスチック製も多くなっています。北海道・東北ではへら、東京ではシャモジ、九州西部ではイイガイ・メンガイなどと呼ばれます。

一方、汁杓子は、主に味噌汁などの汁物をすくい取って、椀などに注ぐ時に使われます。古くはホタテやオオハマグリなどの貝殻に木や竹の柄を付けていましたが、後に皿状の頭部とわずかの角度をもたせた柄とを一木を削って作られるようになりました。貝殻に木や竹の柄を付けたものをカイジャクシといましたが、今もその呼称を使うところもあれば、ほかにもシャモジ・オタマなどの呼称があります。



【写真】焼印のある杓子

- 寸法: (中央) 高さ24.3cm × 頭部幅最大7.2cm
- 材質: 木

## 「杓子」=...?

杓子は神の依り代、神の力が宿るものと考えられ、参詣者に授与する神社もあれば、神社に杓子を奉納する信仰もあります。よく知られているのは広島県宮島の厳島神社で、持ち帰った杓子を家の守りとする風習も伝わっています。

なお、上の【写真】の杓子には、左からそれぞれ、「金華山」、「会津野沢金剛山」、「船形山」、「羽黒山」、「出羽三山神社」の焼印がおされています。特に「船形山」の焼印がある杓子については、かつて宮城県大和町吉田升沢集落にて、木地をひく家々はこの焼印をおした杓子を家の前に並べて商ったといいます。おそらく集落の鎮守である船形山神社にあやかったものでしょう。ちなみに、田植えの時にこの杓子を腰に差すと、腰が痛まないといわれていたそうです。

引用・参考

- ・小野寺正人・三島一夫 1973 「船形山の作まつり」『宮城県史21(民俗3)』宮城県史刊行会
- ・工藤員功 2017 「しゃくし【杓子】」『絵引 民具の事典【普及版】』河出書房新社
- ・王秀文 1997 「シャクシ・女・魂:日本におけるシャクシにまつわる民間信仰」(国際日本文化研究センター主催 第89回日文研フォーラム)





# 漆塗り道具

URUSHINURIDOUGU

担当 真柄侑

職人の心意気、  
語ります



● 寸法: (左奥桶) 径27.0cm × 高さ20.6cm

● 材質: 木・竹(タガ)

## 弘前市なのに“越前屋”?

漆塗りに使われていた桶の側面に、店の名前が判があります。

「弘前市和徳町 株式会社越前屋漆商店」

…はて、なぜ弘前市の店に“越前”という名前が?

こんなことを疑問に思い、弘前市の漆工芸、津軽塗の歴史について調べてみました。

## 津軽塗の歴史をたどる

青森県では、縄文時代から漆の利用がみられましたが、漆器生産地としての基礎は江戸時代初期に築かれます。津軽地方の漆工芸は、刀剣や甲冑の漆工技術にそのルーツがあり、各地から技術が集まっていました。

そんななか、1685(貞享2)年に池田源兵衛という塗師が津軽へ招かれました。彼の出身は若狭小浜藩、現在の福井県です。そしてこの人物こそ、のちに津軽塗の大きな特徴となる変り塗技法(色漆を塗り重ね、研ぎ出して平滑に仕上げる)へ移行する端緒を作った人だったのです。その後、息子源太郎が父の遺志を継ぎ、江戸で8年間の修業を経て変り塗を身につけ、他の塗師たちを圧倒しました。

1883(明治16)年には、和徳町にて源太郎(襲名後:青海源兵衛)の裔を工長とした漆器製造所が発足しています。この「越前屋漆商店」も何らかの関係があったのかもしれませんが。

## “津軽の馬鹿塗”―塗りの堅牢さは日本一!

資料には店名のほかに、例えば一番大きな桶には「上生漆」、小さい容器には「上朱漆」といった判もあり、おそらく各工程によって容器を使い分けられていた様子がみられます。

下地付け、模様付け、塗り重ね…など基本的な手順がありますが、津軽塗が誇る独自の「研ぎ出し変り塗」技法は約50工程にも及ぶほか、“馬鹿塗”と呼ばれるほど、塗りの堅牢さでは右に出るものがないといわれています。「馬鹿正直なほど手抜きをしない」津軽塗にとっての誉め言葉です。

作業が垣間見える資料のこんな文字からも、津軽漆工芸の実直さに思いを馳せられたのでした…。

引用・参考

- ・岩本由輝 2002 『東北地域産業史―伝統文化を背景に一』 刀水書房
- ・沢口悟一 1966 『日本漆工の研究』 株式会社美術出版社
- ・「新編 弘前市史」編集委員会編 2003 『新編 弘前市史 通史編3(近世2)』 弘前市企画部企画課
- ・21\_21 DESIGN SIGHT 2012 『colocal books 東北のデマヒマ【衣・食・住】』 株式会社マガジンハウス





# 仙臺古名家真蹟書画

SENDAIKOMEIKASHINSEKISYOGA

担当 奈良輪俊幸



失われた資料も収録!

- 寸法:(左)幅26.2cm×高さ37.2cm×厚さ3.5cm  
(右)幅13.6cm×高さ20.4cm×厚さ0.8cm

● 材質:紙、糸

● 刊行年:1892(明治25)年

## バラエティーに富んだ、ユニークな資料集

歴代藩主以下仙台藩ゆかりの著名人の書状など69点を収録し、考証を加えた書画類の複製本です。仙台で出版・書店業を営み、郷土資料の蒐集家でもあった伊勢齋助が編集しています。石版刷という方法で印刷した本編と、元仙台藩士一條十郎による翻刻と解説を掲載する付録からなっています。

このスタイルは、明治20年代に内閣臨時修史局が編さんした『史徴墨宝』を手本にしたものと思われます。また、元資料の墨色の濃淡や料紙の破損状況が再現され、用紙には越前奉書紙を使用するなど、細部にこだわりが見られます。

現存する書状などと比較すると、忠実な模写であることが確かめられます。収録された書跡のなかには現在所在不明のものもあり、当時の所蔵者が明記されていることから、その資料的な価値はとて高いといえます。

## 伊勢齋助と仙台の郷土史研究

伊勢齋助は、江戸時代の後期、仙台の有力な版元・書店であった伊勢屋安右衛門の4代目として生まれました。明治に入り、時代の流れに乗り遅れた仙台の版元が凋落していくなかで、齋助は静雲堂伊勢安書店の店主として、明治時代の仙台郷土史を出版の面から支えていきます。

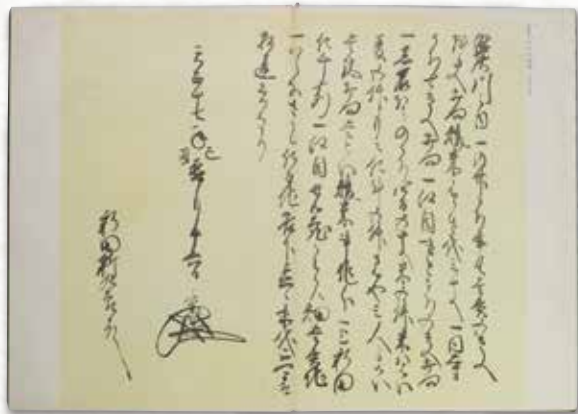
齋助の功績としてよく知られているのが『仙台叢書』の出版です。1893・94(明治26・27)年に刊行されたこの資料集は、齋助が仙台叢書出版協会を組織し、仙台藩政時代の書籍などのなかでも特に重要と思われる資料を翻刻したものでした。自らの戒名を「仙台叢書居士」とし、墓石に刻ませたことから、彼の熱意がうかがえます。この事業は、齋藤報恩会の助成を受けて行われた、同タイトル『仙台叢書』の出版(大正後期～昭和初期)へと受け継がれていきました。

『KOREMITE』vol.5で紹介した郷土史家・常盤雄五郎は、実家が伊勢安書店の近所にあり、齋助の跡継ぎだった政吉とも親しかったために、仕事を依頼し合う仲であったと、のちに回想しています。

引用・参考

- 菅野正道 2011 「遠藤家文書・中島家文書と戦国の南奥羽」『伊達氏重臣遠藤家文書・中島家文書～戦国編～』白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会
- 菊田定郷 1974 『仙台人名大辞書』歴史図書社(初出:1933年)
- 小井川百合子 1982 『仙台の書肆について—西村治郎兵衛、西村治右衛門、伊勢屋半右衛門、伊勢屋安右衛門—』『仙台市博物館調査研究報告書』第2号 仙台市博物館
- 鈴木省三編 1892 『仙台史伝』(初版) 伊勢齋助
- 常盤雄五郎 1991 『本食い蟲五拾年』復刻版 今野印刷(初出:1956年)
- 渡邊洋一 2010 『仙台の出版文化』大崎八幡宮仙台・江戸学実行委員会

片倉小十郎景綱書状の複製も収録!







# 『佐藤素拙傳』と大槻文彦

SATOSOSETSUDEN TO OOTSUKIFUMIHIKO 担当 石澤夏巳



わたしのことを  
知ってください。



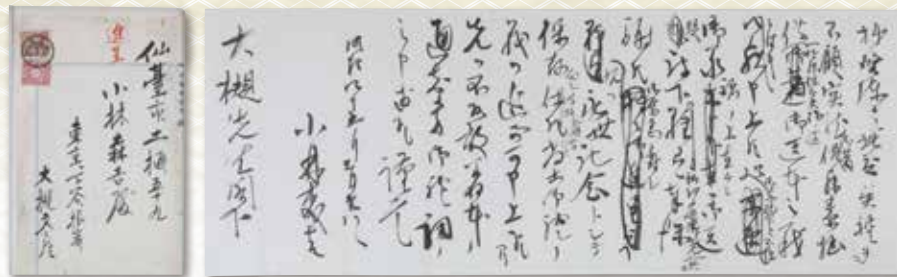
晩年の佐藤素拙

- 寸法:幅15cm×高さ23.5cm
- 著書:大槻文彦
- 発行者:佐藤喜六
- 刊行年:1921(明治45)年

## 佐藤素拙、その人生と人柄

本書は、幕末から明治にかけて伊達家に仕えた佐藤素拙(保太夫)(1812~1886)という人物の伝記で、国語学者の大槻文彦によって著されました。

佐藤素拙は下級武士の家に生まれましたが、出世をかさねて幕末仙台藩の財政を担いました。戊辰戦争の後、政治抗争によって藩を追われ各地を転々としたあと、家族と東京に移住。1871(明治4)年、60歳の時、旧藩主伊達慶邦から説得され、伊達家の財政管理を任されることとなります。また伊達家が開業した質店の宮城屋と、品川にあった仙台味噌工場の経営にも携わりました。木戸孝允から明治政府で働くことを薦められたこともありましたが、それを頑なに断り伊達家に仕え続けました。素拙は家族や部下に対しても厳しい人でしたが、気分が乗ると人に三絃を弾かせて、小唄を謡うこともあったそうです。



### 【写真】

左:小林森吉に贈られた際の、封筒の宛名部分。本書最終ページに貼り付けられている。  
右:献本に対して、小林が大槻へ礼を述べた手紙の下書き

## 大槻文彦と郷土史

国語辞書『言海』などの編者として有名な大槻文彦(1847~1928)ですが、彼は宮城県の歴史に関する研究も精力的に行っています。

明治時代の半ばから、郷土の歴史を顕彰しようとする動きが宮城県でも盛んに行われるようになりました。こうした活動に大槻は深く関わっています。例えば、伊達家爵位の昇進運動。「爵位」とは、江戸時代に大名や公家の身分にあった「華族」に与えられた称号のこと。旧家臣たちは、5段階中の3番目にあたる「伯爵」だった伊達家の爵位を上げようと考えます。その際、大槻は宮城県知事に提出する請願書の下書きを作り、伊達家がこれまで天皇のために忠義を尽くしてきた歴史をアピールしたのでした。

また大槻は『伊達騒動実録』をはじめとする、仙台藩や伊達家に関する本も数多く執筆しています。今回紹介した『佐藤素拙傳』も、その内の一冊にあたります。こうした大槻の活動は、宮城県における郷土の歴史の捉え方に大きな影響を与えたのです。

ところで本書は、大槻から仙台市の小林森吉という人物に献呈されたものです【写真】。大槻は自らの手で、非売品だった本書を知人に贈っていたことが分かります。

### 引用・参考

- ・菅野正道 2012 「明治実業家列伝⑧ 佐藤素拙」「飛翔」2012年8月号 仙台商工会議所
- ・栗原伸一郎 2016 「大槻文彦と伊達家爵位昇進運動」「宮城県公文書館だより」第30号
- ・仙台郷土研究会編 2012 「仙台藩歴史事典 改訂版」
- ・宮城県公文書館 2015 『近代のなかの伊達 歴史学者・大槻文彦と宮城県』

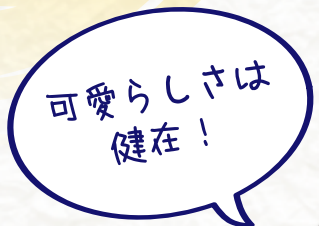




# 青い目の人形

AOIME NO NINGYO

担当 小林美夏



● 寸法: 41.5cm (全長)

## シュネーダーが贈った「ローズマリー」

1920年頃に製作された、米国エファンビー社製の人形“ローズマリー”。1928年頃、少女だった寄贈者(中井千恵子氏)が、D.B.シュネーダー(東北学院第2代院長)からお土産としてもらったものです。当時シュネーダーは、学校経営の基金集めのため米国に一時帰国していました。首の後ろに“EFFANBEE ROSE MARY WALK TALK SLEEP”との刻印がある、目を閉じたり開いたり、「ママー」と声を出したりした人形です。2005年頃本学に寄贈されました。

## 日米の子どもたちをつなぐ「友情人形」

実はちょうど同じ頃、これと同じ人形が多数、米国から日本へ贈られていました。移民問題などによる日米関係の悪化を憂えた米国人宣教師のシドニー・L・ギュリックが、せめて子どもたちの間での友情を育みたいと全米に呼びかけたもので、宮城県では221体の人形が小学校や幼稚園などに届けられたといえます。日本からも「ミス〇〇」と称した各県の人形が返礼として米国に贈られました。シュネーダーはギュリックと親交があったようですので、もしかしたら、ギュリックのこのプロジェクトの趣旨を汲んで、この人形を少女に贈ったのかもしれません。



シュネーダー夫妻(前列中央)を囲んで

## 戦争をくぐり抜けて

1941年12月の日米開戦にともない、これらの人形たちは一転憎悪の対象となり、焼却・廃棄されていきます。しかしそのなかでも、少なからぬ人たちが人形を守り、現在では全国で300体以上、宮城県でも10体あまりの人形が現存しています。当館の人形も同じで、戦時中は肩身の狭い思いをしたそうですが、見つからないように隠し持ち、リュックに入れたり防空壕に入れたりして大切に保存してきたのだそうです。

今は「ママー」とは喋りませんが、その代わりに激動の歴史を静かに私たちに語ってくれる人形です。

引用・参考

- ・ 斎藤良治 2016 「青い目の人形(その一) ローズマリーとベティ・ジェーン」『宮城史学』(35) 宮城教育大学歴史研究会
- ・ 斎藤良治 2017 「青い目の人形(その二) ローズマリーとベティ・ジェーン」『宮城史学』(36) 宮城教育大学歴史研究会
- ・ みやぎ青い目の人形を調査する会WEB(<http://ha7.seikyoku.ne.jp/home/tomo-s/top-page.htm>) 2020年11月1日閲覧



# レスキューから蔵出し!

— 『KOREMITE』の舞台裏 —

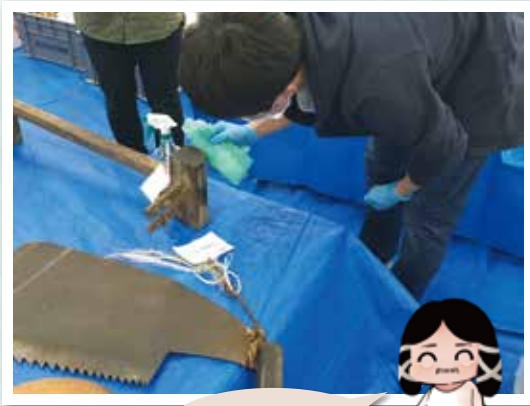
## 被災資料を凍らせる?

今度の『KOREMITE』は、博物館や大学内の資料庫に眠ったままで、あまり展示に使われずにいた“ちょっと忘れられたコレクション”。実はこれを掘り出してくるようになったきっかけは、2019年10月の豪雨災害でした。博物館で使用している学内の地下収蔵庫に雨水が入り込み、一部の資料が水に濡れてしまったのです。東日本大震災以降、地域

資料のレスキューに携わってきた当館ですが、自分の館の所蔵資料が被災したのは初めての経験でした。

水損資料で心配なのは、もちろん水濡れによる破損や変形、そしてカビや虫などの発生。それを防ぐため、水浸しになった資料をまず別室に運んでサーキュレーター等を駆使しながら数ヶ月間乾燥させました。

その間定期的に資料を観察し、カビの疑いがあるものはエタノールを噴霧して殺菌します。乾燥したら、その後、比較的小型の木製品や繊維製品・紙製品は、調湿剤と共に密閉性の高いビニール袋などに入れ、業務用フリーザーに入れて3週間から1ヶ月程度、マイ



消毒中じゃな。



ナス30度の設定で冷凍しました。これは、低温による殺虫効果を狙った方法で、資料を急速に冷やすと殺虫効果が高いのだそうです。比較的安価でしかも安全な処理方法として博物館や文書館などの現場で使われている方法です。

約1ヶ月間凍らせ、カチンカチンになった資料は、今度は段階的に冷凍温度を上げ、少しずつ常温に戻し、そこでようやく博物館に戻していきました。

また材質や大きさなどの関係で冷凍殺虫が適さない資料については、年1回実施している<sup>くんじょう</sup>燻蒸作業で殺虫処理を行いました。



凍らせる準備をしておるぞ。



## レスキューを通じた資料再発見

こうした作業は現在もなお進行中で、地下収蔵庫にある資料を一つ一つ再点検しながらケアしていく、という作業をしばらく続けていく予定です。それは単に資料をレスキューするというだけでなく、あらためて一つ一つの資料を丁寧に見直し、その価値、その魅力を再発見していく作業でもありました。博物館資料を残し、伝えていくためには、単にモノとしての保存を考えるだけでなく、資料に関する様々なデータ、そこから導き出せる魅力を発信し、できるだけ多くの人々に情報を共有してもらえる仕組みをつくるのが大事だと、あらためて感じています。

レスキュー活動は、資料の危機を救うとともに、これに新しい息吹を吹き込む、またとない機会でもあるのです。





# どんな時にも 学びを楽しめる博物館って？

2020年は、春先から新型コロナウイルス(COVID-19)が世界的に猛威をふるい、日本国内でも多くの博物館が、展示室の一般公開を一時休止しました。その後再開した博物館も少なくありませんが、東北学院大学博物館は、学生たちが集まる「学びの場」であることを考慮し、学生の安全を最優先に考える立場から、引き続き一般公開をお休みさせていただいています(2020年11月現在)。

そんななかで博物館にできることは何だろう？わたしたちの2020年度の博物館活動は、まさにそれを探る活動でした。

## うちミュージアム

そのなかで取り組んだことのひとつが、北海道博物館(札幌市)を发起人としてはじめたプロジェクト「うちミュージアム」への参加でした。学芸研究員を中心にアイデアを出し合っ、子どもたちが楽しく学べ、かつ、「東北学院大学博物館ならでは」の収蔵品を活用したコンテンツを作り出し、そのためのオリジナルページを作って、インターネット上での公開を開始しました!

当館のシンボル展示である市川橋遺跡出土の墨書人面土器の「ふくわらい」、2019年企画展でとりあげた「仙台年中行事絵巻」の謎解きクイズなど、これまで見慣れた資料にちょっと違う角度から光を当て直して、魅力を再発見してもらえるようなコンテンツを考えてみました!



<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/ouchi/>

## うちからも学院大博物館! どんどん情報発信していきます!

### オリジナルホームページの開設!

また、今回のKOREMITE展にあわせて、博物館のオリジナルホームページも新たに開設することにしました。

ホームページでは、開催中の展示会に関する情報はもちろん、同時に博物館が所蔵しているコレクションの情報も、少しずつですが公開していく予定です。もちろん「うちミュージアム」のような、インターネットならではのコンテンツも、どんどん考えていきたいと思えます。



<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/>

### Twitter …学芸研究員のつぶやき

また、博物館ではすでに2018年からTwitterを通じて情報発信も行っています。こちらも引き続きご注目ください!

イベントの告知だけでなく、日々の博物館の様子、所蔵資料のミニクイズ、そのほか様々な関連情報を、学芸研究員がそれぞれの視点でほぼ毎日のようにつぶやいています。

博物館の「いま」を知っていただくメディアとして、是非フォローしてください!



わしもどんどん活躍するぞ!

これからの博物館の  
様々な情報発信に  
注目してくださいね!



SCOOPI! 東北学院大学博物館 特別企画  
**第1回 キャラクター総選挙**

東北学院大学博物館では、これまでの展示活動のなかで、学芸研究員として働く大学院生や学芸員課程で学ぶ大学生たちが、たくさんのシンボルキャラクターを創作してきました。昨年2019年は、博物館開館10周年という記念の年であり、これをお祝いして、強力なキャラクターたちが結集し、一大イベント「東北学院大学博物館 第1回キャラクター総選挙」が行われました！

投票期間は、2019年10月～12月の2ヶ月間。この間、大学のオープンキャンパスで博物館を訪問してくれた高校生や、せんだいメディアテークで開催された仙台市内のミュージアムが一堂に会するお祭り「ミュージアム・ユニバース」に参加してくれたちびっ子たちの投票も加わって、総選挙はデットヒートをくり広げたのでした。

最終結果は、下の「結果発表」の通りです。栄光の1位は「ゆる首長」。おめでとうございます！となりのページに、エントリーしてくれたキャラクターたちのプロフィールを紹介します。



**ゆる首長**

開館10周年記念特別展「開・首長の棺」の Mascotキャラクター。福島県喜多方市の灰塚山古墳の石棺に埋葬されていた人物が、ゆるキャラとしてよみがえりました！年齢は50歳くらい。実は腰が悪いらしい…(お大事に)。総選挙では、そのゆるさが人気爆発！現在、東北学院大学博物館の名誉館長(!?)として大活躍中です。

**じゅうぞう**

これまた、開館10周年記念特別展「開・首長の棺」の Mascotキャラクター。灰塚山古墳から出土した鏡の獣の文様がモチーフです。

**おりせちゃん**

岩手県にあった一閑澤の家老をつとめた境澤家6代目当主の3女利勢がモデルです。まさに江戸時代のお嬢様！「境澤文書」には、Happyウェディングのご様子が記録されています。

**いなり**

『KOREMITE』vol.5のメインキャラクターとして、企画展「仙台年中行事絵巻」の案内役をつとめました。江戸時代、仙台のお正月に突如現れた、狐の衣装を身にまとったコスプレイヤー。近年のコスプレ文化について、「時代がやっと私に追いついた」という一言あり。

**いたびくん**

中世の供養塔「板碑」の展示コーナーの Mascotキャラクター。シンボルマークの梵字が特徴。松島町雄島の海の中から見つかった板碑がモチーフです。今後も、新キャラクターが次々登場するかも…？

**どきのすけ**

宮城県松島町の西の浜貝塚から出土した縄文土器の文様がモチーフ。展示の企画を考えている時、文様を見た学生が「…顔に見えない？」と発言したのがきっかけで誕生したそう。

**みんぞくん**

東北学院大学文化財レスキューチームの公式(!?)キャラクター。捕鯨のまち鮎川で生まれました。レスキューチームを率いていた先生に似ているとかいないとか。



し



う



か



## KOREMITE vol.6

編集・発行：東北学院大学博物館

発行日：2020年11月（初版）

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL:022-264-6920

<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum/>



@tgu\_museum

